

サイバーセキュリティ、現状と対策

2013年2月1日(金)

東京工科大学
手塚 悟
tezuka@cs.teu.ac.jp

1. パネルディスカッションのプログラム

第二部 サイバーセキュリティ、現状と対策

— 企業等におけるサイバー攻撃対策

— スマートフォンの利活用とセキュリティ対策

●現状概説

早貸 淳子

一般財団法人JPCERTコーディネーションセンター

西本 逸郎

株式会社ラック

●パネルディスカッション

コーディネーター

手塚 悟

東京工科大学

パネリスト

早貸 淳子

一般財団法人JPCERTコーディネーションセンター

西本 逸郎

株式会社ラック

齋藤 衛

株式会社インターネットイニシアティブ

加賀谷 伸一郎

独立行政法人情報処理推進機構

三角 育生

内閣官房情報セキュリティセンター

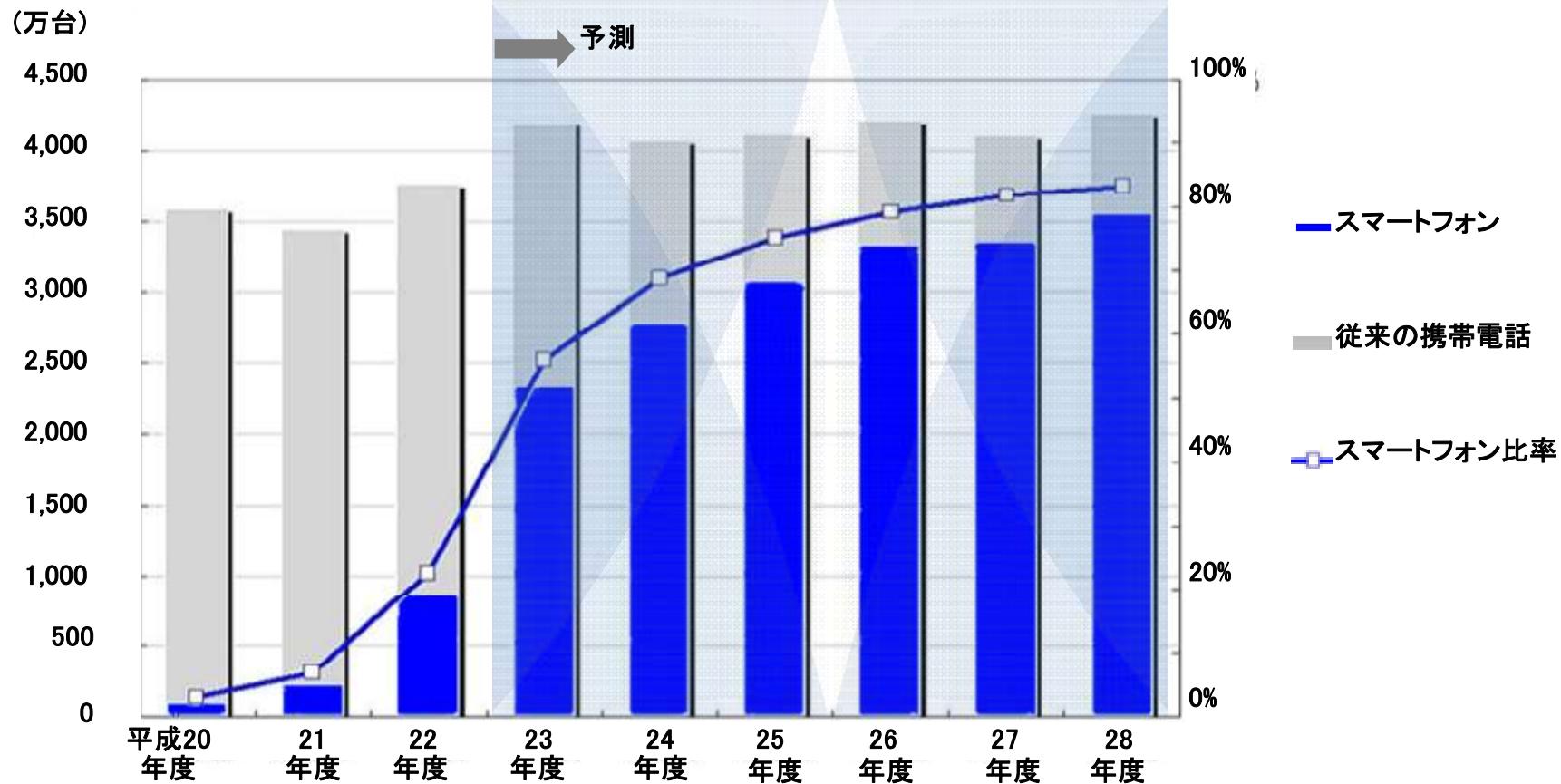
2. 個人情報漏えいインシデント概要データ

漏えい人数	628 万 4,363 人
インシデント件数	1,551 件
想定損害賠償総額	1,899 億 7,379 万円
一件当たりの漏えい人数※1	4,238 人
一件当たり平均想定損害賠償額※1	1 億 2,810 万円
一人当たり平均想定損害賠償額※2	4 万 8,533 円

※1:平均値は、被害者数が不明のインシデント68件を除いて算出

※2:この平均値は一件あたりのばらつきを吸収するため、各インシデントの一人当たり想定損害賠償額を算出し、そこから全てのインシデントの一人当たりの想定損害賠償額の平均額を算出。よって、想定損害賠償総額を漏えい人数で割った値ではないことに注意されたい。

3. スマートフォンの普及状況

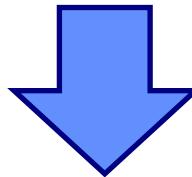


株式会社MM総研ニュースリリース(平成24年3月13日)

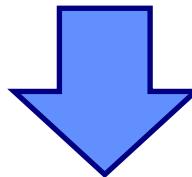
国内の携帯電話端末(従来の携帯電話+スマートフォン)の出荷台数

4. パネルディスカッションの趣旨

- (1) 最近のサイバー攻撃等に関し、企業、政府はどのような対策を講じていかなければならぬか。
- (2) スマートフォン等の情報通信技術が発展し、それを活用する個人は、何に留意していけばよいのか。



- 現状認識し、それぞれの問題点を明らかにする。

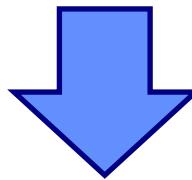


- 今後の対策、課題等について議論する。

5. パネルディスカッションの流れ（1）

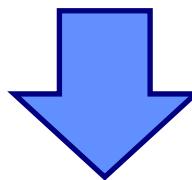
- 現状解説

- ① 早貸様 「サイバー攻撃の動向とインシデント対応の状況」
- ② 西本様 「サイバー攻撃対策最前線、スマートフォンのセキュリティ対策」



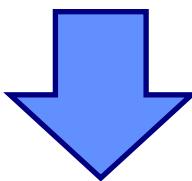
（1）スマートフォンの利活用とセキュリティ対策

齊藤様、加賀谷様、三角様からそれぞれのお立場で現状認識等を発表



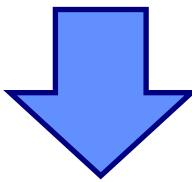
- 各パネリスト間で自由討論

5. パネルディスカッションの流れ（2）



(2)企業等におけるサイバー攻撃対策

齊藤様、加賀谷様、三角様からそれぞれのお立場で現状認識等を発表



- 各パネリスト間で自由討論

6. パネルディスカッションのまとめ（1）

（1）スマートフォンの利活用とセキュリティ対策

- スマートフォンはまだ発展途上であることを認識すること
- 基本ソフトを更新すること
- ウィルス対策ソフトを利用すること
- アプリケーションの入手方法に気を付けること
- ユーザのパーミッション
- 人に影響のある情報
- 脆弱性：OS、アプリ、実装の問題
- 常識、教育の充実
- 安全なマーケット

6. パネルディスカッションのまとめ（2）

（2）企業等におけるサイバー攻撃対策

- 既存対策手法の機能と限界の再認識をすること
- 標的型攻撃を想定した対策をすること
- 内部犯行を想定した対策をすること
- 緊急対応の仕組み(CSIRT等)の構築をすること
- 組織をきっちと作ること
- ルールを明確にすること
- 最新の情報セキュリティ技術を活用すること
- 会社法
- 内部統制
- チャレンジ
- 丸投げ